

第２回

日光白根山火山噴火緊急減災対策砂防計画検討委員会

議事概要

1. 日 時 令和元年 9 月 11 日（水）14 時 00 分～16 時 00 分
2. 場 所 片品村役場 2 階 会議室
3. 出席者

【委員長】

執印 康裕 （宇都宮大学 教授）

【学識委員】

伊東 明彦 （宇都宮大学 教授）【欠席】

中村 洋一 （宇都宮大学 名誉教授）

堀田 紀文 （東京大学 准教授）【欠席】

【委 員】

別紙の通り。

4. 議事概要

【前回委員会での決定事項、および指摘と対応】

- ・ 前回委員会での指摘および対応を確認した

【基本事項及び基本方針の確認】

- ・ 対策のタイミングや対策個所の考え方を確認した。

【対策方針】

- ・ ハード対策は基本対策がベースであり、それに対して緊急対策を補足として位置付ける。
- ・ ソフト対策はすべての現象を対象とするが、実際に起こった現象や位置を迅速に把握することが重要である。

【基本対策】

- ・ 今後県や他部局と調整をしながら具体的な検討を進めていく。
- ・ 小川游砂地の位置や実現性については現地の状況を踏まえて今後検討すること。
- ・ 噴火に備えて平常時から行う基本対策と、火山活動状況に応じて実施する緊急対策との切り分けについて考え方を次回にしめす。
- ・ 現在実施している通常の降雨対応の未整備分と、火山噴火対応としての基本対策の追加分との関連性について再度整理する。

【火山噴火時の緊急調査】

- ・ 土砂災害防止法の要件である10度以上の範囲や保全対象など、具体的な溪流ごとのカルテを次回委員会でしめす。

【緊急ソフト対策】

- ・ リアルタイムハザードマップと降灰予測などを組み合わせ、噴火時にどのような状況であり、想定範囲はどこまでなのかを把握することが重要である。
- ・ 気象庁が東小川に監視カメラを今年度中に設置する予定である。

【緊急ハード対策】

- ・ 光徳沢での游砂地の実現性について再度整理が必要である。
- ・ 限られた時間や機材で実施するため、実施の優先度についてあらかじめ検討しておく必要がある。
- ・ 基本対策との切り分け、どの程度まで緊急対策で対応するのか考え方についても次回委員会で示す。

5. 次回の予定

第3回委員会は、2019年内に開催する予定である。

以 上

第2回 日光白根山火山噴火緊急減災対策砂防計画検討委員会

出席者名簿

氏名	所属、役職
【欠席】伊東 明彦	宇都宮大学 教授
執印 康裕	宇都宮大学 教授
中村 洋一	宇都宮大学 名誉教授
【欠席】堀田 紀文	東京大学 准教授
石塚 吉浩	国立研究開発法人 産業技術総合研究所 火山活動研究グループ長
【欠席】水野 正樹	国土交通省 国土技術政策総合研究所 土砂災害研究部 深層崩壊対策研究官
三輪 賢志	国立研究開発法人 土木研究所 土砂管理研究グループ 上席研究員
【欠席】西脇 誠	気象庁 地震火山部 火山課 火山監視・警報センター所長
本多 誠一郎	気象庁 宇都宮地方气象台 台長
山田 隆徳	気象庁 前橋地方气象台 台長
斎藤 均	林野庁 関東森林管理局 日光森林管理署長
小川 靖志	林野庁 関東森林管理局 利根沼田森林管理署長
水崎 進介	環境省 関東地方環境事務所 日光国立公園管理事務所長
佐藤 寿延	国土交通省 関東地方整備局 河川部長
神山 正幸	栃木県 県民生活部 危機管理課長
天尾 潔	栃木県 県土整備部 砂防水資源課長
(代理)阿久津 政巳	栃木県 県民生活部 砂防水資源課主幹兼課長補佐
大嶋 一生	栃木県 日光市長
(代理)湯澤 滋正	栃木県 日光市企画総務部総務課主任
堀越 正史	群馬県 総務部 危機管理室長
大竹 哲也	群馬県 県土整備部 砂防課長
横山 公一	群馬県 沼田市長
(代理)原 隆雄	群馬県 沼田市総務部防災対策課課長
梅澤 志洋	群馬県 片品村長